

2014年 ESDの10年
「ICTや映像教材を活用した森林教育」
学習指導講座資料 1

平成25年12月26日
一般社団法人 グリーンエデュケーション

本日の進行

- グリーンエデュケーションの取組みのご紹介
- ESDの目標と実践に向けて
- 映像補助教材を活用した環境学習プログラムの理解
- 実践 森林教育プログラム
- 次世代映像技術ARを活用した社会科授業
- 意見交換

1 グリーンエデュケーションの取組み(Green TV)

- 英国本部のグローバル化環境映像メディア
GreenTVと提携、普及啓発活動(2006年より)
- 2015年ICT学習環境を見据えて、環境省に政策提言(採択)
- 2012年より和歌山県より本格的取組みを始める
 - ※企業と協働型推進(国連生物多様性の10年委員会認定事業)
 - ナショナルトラストと生物多様性を学ぶ(田辺市)
 - 海の多様性を学ぶ(三浦市)
 - 湿地と田んぼ、ラムサール条約を学び(南三陸町)
 - ※政府と地域協働型推進
 - 中部環境省(ESD実証授業)
 - ※自治体と協働型
 - 語り部ジュニア教材化(田辺市)
 - 地域の森と水資源を学ぶ(熊野市)

2 グリーンエデュケーションが目指す学習環境

- 優しい思いやりを持つ子供たち(自然や生き物も含めたおもいやり)
- 自然共生と地域への郷土愛を育む人材育成
- 情報教育を活用したグローバル人材

映像補助教材を活用した対話型の環境教育

- ・ICTを活用した学習環境(家庭学習×学校教育)
- ・映像教材化の重要性(活動の可視化と教材づくりへの参加)
- ・反転授業の体系化と技術研究
- ・環境教育等促進法の改正に伴う地域協働型推進
- ・ESD教材のアーカイブプラットフォームの研究

3 ESDの目標と実践に向けて (1)

- ESD (Education for Sustainable Development) とは
- 「持続可能な開発のための教育」
社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、
新たな価値観や行動を生み出すことを
目指す学習や活動のこと。
- 2002年のヨハネスブルグサミットで
日本政府の推奨により「ESDの10年
(2005年～2014年) が採択され、
ユネスコが推奨機関に。
国内ではユネスコ国内委員会や文科省、
環境省らが協力しESDを推進。
- 2014年には、ESDの10年の最終年として、
愛知県と岡山県で国際会合が開催される。



3 ESDの目標と実践に向けて (2)

- 小中学校でのESDの推進を目指し、環境省が全国からモデルプログラムを募集。2013年度は20のESD環境教育モデルプログラムが採択され、全国で実証授業が展開されている。
- 中部地区では、ICT／環境教育映像を活用したプログラムが採択。地域の資源や活動する人たちなどを盛り込んだ映像は、双方向・対話型の授業を効果的に構成し、自分たちの足元と、地球規模課題のつながりを考える上での気づきの提供として有効と評価される。
- 先生の実験に応じて、自在にカスタマイズが可能であり、繰り返し使えることからESD推進の上でも効果的。



4 映像補助教材を活用した環境学習プログラムの理解

- 短い訴求映像教材化と組合せ
- 効果的な地域取材映像の導入(地域活動の可視化と伝達)
- 体験学習プログラムとの連携
- ファシリテーターとしての役割の理解
- グループ学習の有効性
- ICT学習を活用した家庭学習の整備

5 実践 森林教育プログラム

別紙資料2

6 次世代映像技術ARを活用した社会科授業

➤ クラウド型教材の可能性

- 家庭内学習と学校教育の連動
- 社会科授業と地域教育の連動
- 拡張現実技術とは？

➤ デモンストレーション ～『映像教材と教科書の融合がもたらす効果』～

- 地域教材によるリアリティ(関心度の向上)
- 学習 理解度の向上
- 教師の補助教材と学習の動機付け(対話型への導入)